

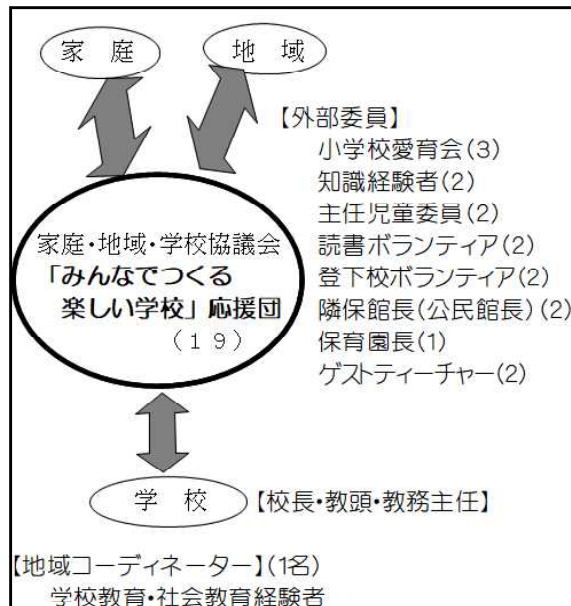
# 「みんなで作る楽しい学校」応援団

～地域に学び、地域を愛する児童の育成～

美浜町立美浜中央小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- 開催回数…2回
- 開催日程…6月18日(火)  
3月4日(水)
- 協議内容  
6月…①スクールプランについて  
②学校応援団としての年間の活動について  
2月…①学校評価の結果について  
②学校応援団としての成果と課題について

### (3) 協議会における成果と課題

- 様々な行事や活動に参画し、地域と学校の連携が深まった。
- 体験学習や読み聞かせなど、子どもたちの応援団として、支援活動が充実した。
- △地域や保護者の方とふれあう中で、「あいさつ」にも取り組んだが、なかなか広がっていかない。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

校区中央を流れる耳川は、古くより田畑を潤し、また鮎に代表される生き物を育てる、まさしく住民の生きる源であった。そして校区にある弥美神社では、その恵みに感謝する例大祭が毎年厳かに開催されている。そこで、以下のねらいでこの活動を進める。

- 自分たちの住むふるさとを調べ、そのよさを知るとともに、将来ふるさとを守っていかうとする心情を育てる。
- 身近な地域の豊かな自然や文化、地域の人・もの・ことがらにふれ、それらを発信し、広める。

### (2) 活動の実際

- ①弥美神社祭礼学習(6年生)～ふるさとへの感謝・誇り～

弥美神社で5月1日に行われる例大祭の学習に取り組んだ。学校再編5年目を迎え、先輩児童の活動を目の当たりにしてきたこともあり、より深く・広く学習できるようになった。4月の終わりに、例大祭に造詣の深い民俗学者の橋本先生から講義を受け、幣押しや王の舞、獅子舞、各集落に伝わる「御膳」について学んだ。そして、例大祭直前に、自分たちの集落に伝わる御膳や幣を実際に取材し、祭り当日はほぼ一日を弥美神社で過ごしながらか学習した。その後、学習成果をまとめ、今年は「幣」の再現模型を作って幣押しを演じて見せるなど、全校児童の前で祭礼のいわれや意義などについて発表した。さらには、隣の公民館にできた祭礼学習の部屋に幣の模型を寄贈し、記念イベントにも参加した。

#### ②稲作体験学習（5年生）～恵みへの感謝・奉納～

「米作り」に取り組んだ。地元の長谷川農園さんにお世話になり、春には種まきの見学と田植え体験、夏には案山子づくり、秋には稲刈り体験の学習を行った。育てた米は、弥美神社の御祭神である「室毘古王（むろびこのみこ）」にちなんで「むろびこ米」と名付け、11月25日の新嘗祭に合わせて弥美神社へ奉納した。（子どもたちは行けなかったが伊勢神宮にも奉納）また、秋には弥美神社のご祭神が降臨したという新庄区の山間を訪れ、次年度行う祭礼学習への足がかりとした。

#### （3）地域コーディネーターの活動概要

- ・家庭・地域・学校協議会のリーダーも兼ねていただき、『みんなで作る楽しい学校』応援団として、すべての企画・運営のアドバイザーとして活躍していただいた。

#### （4）特に工夫した事項

- ・本校の校区の中心を流れる耳川と周囲の田畑。水と人々の暮らしは、切っても切り離せないものである。それに加えて、校区に伝わる弥美神社の祭礼も人々の暮らしに根付いている。将来、この地域と伝統を守っていこうとする心情を育てるべくこの活動を位置づけ、5・6年だけでなく、3年生から取り組んだ。

#### （5）成果と課題

学校再編後5年目ということで、以前の2校体制のイメージがほぼなくなり、地域としては昔から一つであった「耳地区」の学校として定着してきている。祭礼学習にしても農業体験にしても地域の垣根が低くなり、地域についての学習、あるいは地域を巻き込んだ学習をスムーズに進めることができている。この利を生かして、地域を支え、担っていく人材を育てる活動が根付き始めたことは大きな成果である。

今後、これらの活動を、より地域の人々とながらを持った活動に広げるとともに、全学年にまで広げて、段階的、系統的に体験活動が進められるよう考えていきたい。